

. 目標 「参加したくなるまち」

[1] 目標に基づく数値目標の設定とその達成に向けた考え方

(1) 数値目標の設定

| 指標 | 現況値 (H18 年度) | 目標数値 (H23 年度) |
|------------------------------|--------------|---------------|
| もんぜんぷら座及び生涯学習センターの年間利用者数 (人) | 300,726 人 | 368,000 人 |

地域住民の文化的な活動の活性化や居住環境・地域コミュニティ形成の支援、生涯学習・市民活動支援・高齢者交流等、地域ぐるみのまちづくり活動の喚起を積極的に実施し、更なる交流機会の提供、地域商業等の魅力向上に向けた取組みを行っていく必要がある。

中心市街地のほぼ中央に位置する「もんぜんぷら座」「生涯学習センター」を中心市街地における市民活動、文化活動の状況を把握できる代表的な交流拠点と捉え、「もんぜんぷら座及び生涯学習センターの年間利用者数(人)」を指標とし、368,000 人を数値目標とした。

この数値は、長野市民が延べ年間 1 回は、どちらかの施設を利用したことと考えられるため、市民総意のまちづくりを実践しているものと捉えることができる。

(2) 達成に向けた考え方

(イ)もんぜんぷら座の活用による効果

) 託児機能の導入による効果

市民からの要望が強い託児機能の導入を図ることにより、利用者数の増加を見込む。平成 18 年 11 月にオープンした近隣の民間託児施設の実績を参考にし、

$$25 \text{ 人} \times 335 \text{ 日} = 8,375 \text{ 人} \dots ()$$

1 日当り利用実績 もんぜんぷら座稼働日数

の増加を見込む。

) 「ぷら座ホール」及び「ぷら座 BOX」の利便性向上による効果

「ぷら座 BOX」は、市民活動の場としてニーズが高い機能であり、利用者から更なるスペース確保が望まれている。今後「ぷら座ホール」については、「ぷら座 BOX」のような少人数での利用を可能とするような運営改善を行い、市民活動の更なる活性化に資する利用者の増加を図ることにより、

$$110 \text{ 人} \div 5 \text{ BOX} = 20 \text{ 人}$$

1 日当たりの 5BOX 利用者数

1 日当たりの 1BOX 平均利用者数

$$20 \text{ 人} \times 335 \text{ 日} \times 62.3 \% = 4,174 \text{ 人} \dots ()$$

1日当たりの1BOX平均利用者数 H17年もんぜんぷら座稼働日数 ぷら座BOX稼働率(H18.10増設後)

の増加を見込む。

) 学習コーナー増設による効果

今後、更なる機能強化を図ることとし、

$$12 \text{ 席} \times 335 \text{ 日} = 4,020 \text{ 人} \dots ()$$

増席数 H17年もんぜんぷら座稼働日数

の増加を見込む。

よって、「もんぜんぷら座活用事業」に取り組むことにより、

$$8,375 \text{ 人} + 4,174 \text{ 人} + 4,020 \text{ 人} = 16,569 \text{ 人} \dots (イ)$$

()の増加見込み ()の増加見込み ()の増加見込み

の増加を見込む。

(ロ) トイゴ生涯学習センターの活用による効果

トイゴ活用事業において、定期的(年2回)に市民ニーズを捉えた魅力的な講座を開催することにより、

$$4,400 \text{ 人} \times 2 \text{ 回} = 8,800 \text{ 人} \dots (ロ)$$

利用者増加分 年間実施回数

の利用者数の増加を見込む。

(ハ) 既存施設の通年利用による増加分

もんぜんぷら座4階と生涯学習センターは、ともに平成18年10月にオープンした。両施設が未開館だった期間の利用者数をオープン後の実績から見込み算出すると、

$$) \text{もんぜんぷら座4階} \quad 2,609 \text{ 人} \times 6 \text{ カ月} = 15,654 \text{ 人}$$

H18年10月～H19年3月までの4階利用者数/6ヵ月

$$) \text{生涯学習センター} \quad 4,372 \text{ 人} \times 6 \text{ カ月} = 26,232 \text{ 人}$$

H18年10月はオープンイベントが重なり、利用者数は特異値を示すことから対象から外し、H18年11月～H19年3月までの生涯学習センター利用者数/5ヵ月

))により、

$$15,654 \text{ 人} + 26,232 \text{ 人} = 41,886 \text{ 人} \dots (ハ) \quad \text{の利用増が可能と考えられる。}$$

以上、(イ)(ロ)(ハ)により、「参加したくなるまち」の達成に向けた取組を通じて、

$$16,569 \text{ 人} + 8,800 \text{ 人} + 41,886 \text{ 人} = 67,255 \text{ 人}$$

(イ) (ロ) (ハ)

の増加を見込む。

以上から、平成 23 年度のもんぜんぷら座と生涯学習センターの年間利用者数を

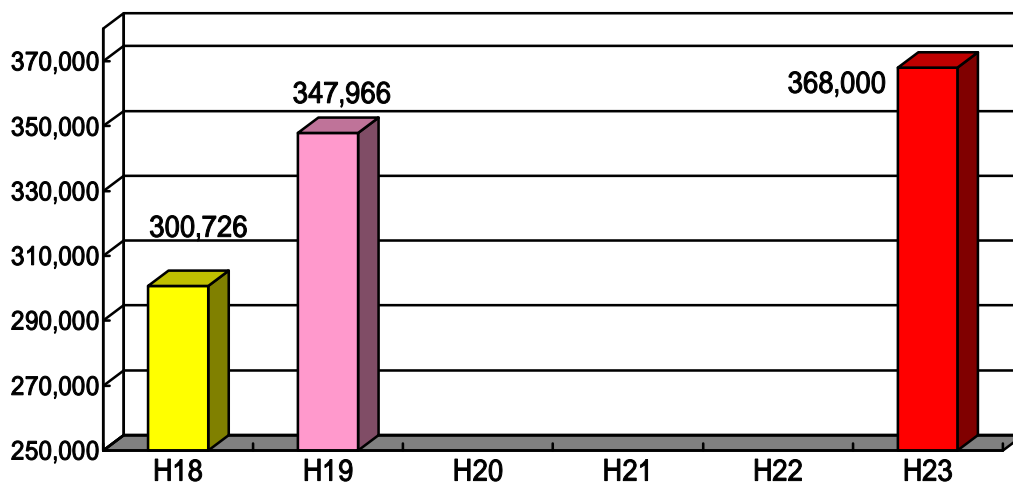
| | | | |
|-----------|---|----------|-----------|
| 300,726 人 | + | 67,255 人 | 368,000 人 |
|-----------|---|----------|-----------|

H18 年もんぜんぷら座・生涯学習センター利用実績 増加見込

することを目標とする。

[2] 数値目標の達成状況、取組の進捗状況の分析及び現時点の評価等

1. 数値目標の達成状況



| | | | | | | | |
|---|---------|---------|-----|-----|-----|---------------|---------------|
| もんぜんぷら座 とトイゴ生涯 学習センターの 年間利用者数 (人) | H18 | H19 | H20 | H21 | H22 | H23 (実績数値) | H23 (目標数値) |
| | 300,726 | 347,966 | | | | | 368,000 |

2. 数値目標に係る取組の進捗状況の分析及び現時点での評価等

(1) 認定基本計画に記載された取組の進捗状況の分析

目標 「参加したくなるまち」に関連する 10 事業における平成 19 年度の取組状況

| No | 事業名 | 事業期間 | H19 主な取組 |
|----|-----------------------------------|--------|--------------------|
| 1 | 26.もんぜんぶら座活用事業（未利用階の有効活用に向けた改修工事） | H19～20 | 中活認定変更 改修工事着手 |
| | 26.もんぜんぶら座活用事業 | H15～ | 施設の管理運営 料金改定の検討 |
| 2 | 27.トイゴ活用事業 | H18～ | 各種講座開催 |
| 3 | 30.起業家インキュベーション施設事業 | H18～ | 設置ビルの決定、 改修工事 |
| 4 | 37.空き店舗等活用事業 | H12～ | 新規出店舗数 5 件 |
| 5 | 38.起業家塾開催事業 | H11～ | 講座開催（6 回） |
| 6 | 39.善光寺表参道文化村事業 | H18～ | 随時、イベント実施 |
| 7 | 40.まちなか花とイルミネーション事業 | H13～ | 随時、イベント実施 |
| 8 | 41.まちなか情報発信事業 | H16～ | 随時、情報発信 |
| 9 | 42.まちの見どころ再発見事業 | H17～ | イベント実施（5 回） |
| 10 | 43.もんぜんパートナーシップ事業 | H17～ | 随時、活動（9 団体） |

平成 19 年度の目標 「参加したくなるまち」の取組状況は、計画に位置づける 10 事業のうち、上記のとおり全 10 事業に取り組んだ。主要事業の一つである 26.もんぜんぶら座活用事業については、未利用階の有効活用に向けた改修工事を行うため、平成 19 年 8 月に基本計画を変更し、事業を拡大して工事に着手した。また、27.トイゴ活用事業においても、様々なテーマの各種講座を企画し学習機会の充実を図った。このほかトイゴ施設商業運営委員会を組織し、定期的に会議を行い関係者の情報共有を図れるような体制づくりを行った。

こうした中、数値目標の状況については、平成 18 年度の当初値 300,726 人であったのに対して、347,966 人と 47,240 人増加した。

[平成 19 年度の取組の様子]



26.もんぜんぶら座活用事業
39.善光寺表参道文化村事業



38.起業家塾開催事業

(2) 現時点の進捗状況に対する評価等

目標 「参加したくなるまち」については、平成 19 年度に予定していた 10 事業全て、実施し更に、1 事業を拡大し取り組むことができた。認定前からの事業が多く、事業開始から年数を経てきているため、来年度以降の事業のあり方について検討が必要な事業もあるが、目標達成に向けた評価としては、概ね順調であり、一定の評価をする。

[3] 数値目標達成の見通し及び今後の対応

1. 数値目標達成の見通し

Case 2 「基本計画は概ね想定通りに進んでおり、数値目標達成も所期通り可能である」

理由 もんぜんぷら座及び生涯学習センターは平成 18 年 10 月オープンのため、平成 19 年度の数値は、もんぜんぷら座及び生涯学習センターの通年利用による増加分を当初より 41,886 人増を見込んでいたが、それを上回る利用者数があり概ね順調に推移している。

また、26.もんぜんぷら座活用事業（未利用階の有効活用に向けた改修工事）により、もんぜんぷら座内の会議室が増え、学習コーナーの増設もし、目標に関連する事業も予定どおり取り組んでいることから、今後も利用者数は増加していくと思われ、当初の目標達成は可能と考える。

2. 今後の対応について

(1) 今後の対応

目標 「参加したくなるまち」については、「基本計画は概ね想定通りに進んでおり、数値目標達成も所期通り可能である」との判断を踏まえ、今後の対応については、「現行の取組で十分」であると考え。

しかし、事業実施から年月が経過し一定の効果を生み出してきており、今後の活動のあり方を検討していく時期にきている事業もあることから、民間の事業主体や中心市街地活性化連絡協議会との連携を図りながら、円滑な事業推進と更なる活動について模索していく。

(2) 対応の具体的内容

地域住民や事業者、ボランティア団体、行政など多様な主体がそれぞれの活動をより推進し、地域ぐるみのまちづくり活動の喚起を促すため、目標達成に大きく関連する、26.もんぜんぷら座活用事業や 27.トイ—ゴ活用事業を中心に事業の推進を図るとともに、39.善光寺表参道文化村事業、42.まちの見どころ再発見事業などの実施主体が民間事業者の事業に対する活動支援体制を構築していく。

・その他

「基本計画の重要事項に関する変更等」

都市計画マスタープランの改定

| | |
|-------------------|---|
| 平成 19 年 4 月 1 日改定 | 本マスタープランでは、これまでに人口増加を背景とした市街地の拡大による都市づくりではなく、長野駅などの主要な駅や行政支所等を中心とした拠点において、生活機能を徒歩圏に集約化することで自動車に頼らないコンパクトな生活圏の形成を目指すこととしている。 |
|-------------------|---|

準工業地域への特別用途地区指定

| | |
|----------------------------|---|
| 平成 19 年 7 月 31 日 都市計画決定 | 中心市街地の賑わいや活性化を促し、商業・業務機能等の回復・強化を図るなど、本市の都市の将来像を実現するために、準工業地域の全て（約 649ha）において、都市構造に影響を与える 1 万㎡超の大規模集客施設の立地を制限した特別用途地区を都市計画決定した。 |
| 平成 19 年 9 月 1 日～ 条例施行 | 長野市特別用途地区内における建築物の制限等に関する条例施行 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>特別用途地区を大規模集客施設制限地区として、床面積が 1 万㎡を越す建築物は、建築してはならないこととした。</p> </div> |